



© JFA / PR



VOL.35 2021.10.25

普及コーディネーター取り組み事例紹介①

滋賀県

吉田 知世さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

滋賀県は県内選手登録者数が減少する中、女子選手登録者数は年々増加しています。昨年度は、新型コロナウイルスの影響を受け、約10年ぶりに減少してしまいました。

滋賀県女子サッカーは首都圏に比べ、まだまだ途上です。2019年度の女子高校生登録人数は過去最低でしたが、昨年度は高校女子サッカー部が増えたり、U15までしかなかったクラブチームにU18カテゴリが創設されました。県内には、高校男子サッカー部に所属しながら活動する経験者もいます。少しずつですが、高校年代の普及がされています。今後、各年代の登録者数増加が回復するようフェスティバルの開催やキッズやU12の低年齢層への積極的なかわりを進めていきます。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

テーマく女性指導者によるフェスティバルを。>

昨年度、①元なでしこジャパン選手大谷未央氏をゲストコーチとして招き小学生を対象としたガールズフェスティバル、②びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部(女子)監督 坂尾美穂氏をゲストコーチとして招き高校生を対象としたレディースフェスティバルを開催しました。①では、4種チームと少女チーム、協会HPで告知し、滋賀県5地区から参加者が集まり、初めて女子同士でサッカーを経験した

選手が、今後も継続してサッカーをしていく、来年もフェスティバルに参加したいなどの意識の醸成を図ることができました。また、初めてU12女子トレセンスタッフにも運営・サポートをして頂き、さまざまな方に関わっていただきました。②では、県内の高校女子サッカー部員を対象にフェスティバル兼高校生年代女子サッカー選手合同練習会として開催しました。補助を大学生に参加してもらい、高校生が大学生に質問する、大学生が高校生にアドバイスする姿がみられ、高大の繋がりとして互いに貴重な機会となりました。女性指導者だからこそ、女子同士だからこそできる関わりや繋がりを魅力に、どちらのフェスティバルも定例化できるように今後も継続して開催していきたいです。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

県内のクラブチームは、熱心な指導者が多く、なでしこひろばやフェスティバル、サッカー教室などを積極的に開催してくださっています。女子選手登録者数が年々増加しているのは、地道に開催していただいているおかげです。今後は、FA・各種別・技術と連携し、さまざまな方たちに関わっていただき、女子サッカーの普及をするとともに2022年より創設される国体少年女子、2025年に開催される滋賀国スポに向け育成・強化にも繋がりたいと考えています。

【今後の目標】

以前よりも、フェスティバル事業が開催できました。まだ小学生・高校生年代対象しか行えていないため、中学生を対象としたフェスティバルを企画しましたが緊急事態宣言発令のため中止になりました。コロナ禍ではありますが、緩和され次第さまざまな年代のフェスティバルを開催していきます。そして、昨年度同様、普及事業・フェスティバルを通して、身近な環境で女性がサッカーを始めることができる環境や長くサッカーに関わることができる環境づくりを行い、他種別や地区と連携して、女子サッカーの認知をはかっていきたいです。



普及コーディネーター取り組み事例紹介②

京都府

樹山 和浩さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

協会をあげて、女性が活躍できるサッカー環境の整備に取り組んでいただいている。京都スタジアムにおいて皇后杯、女子代表国際マッチの誘致を積極的に進めていただきトップ女性アスリートのプレーを観戦することで、憧れから目標となり夢を現実に変えていく選手をオール京都で支えていくことに取り組んでいる。

課題として、女子選手の普及のためにも、少女キッズ、四種委員会からの普及が必要である。そのためにも、女性役員、指導者のなり手の育成と女性が関われるような環境づくりが早急に必要である。京都で育った女子選手が生涯スポーツとして長くサッカーに関わり、役員、指導者、審判の育成に携われることで充実した輝ける人生になれるよう今後も取り組んでいきたい。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

テーマ＜中体連女子選手の継続した環境整備＞

昨年度より、中体連所属女子サッカー選手同士の交流とゲーム機会の創出を目的に、継続的な活動を三種委員会と女子委員会がカテゴリーにとらわれずに指導、運営に取り組んできた。

今年度においても、新型コロナ感染拡大における緊急事態宣言、まん延防止対策期間などの制限の中ではあったが、女子選手が毎年同年代の女子選手との交流活動を楽しみにしていること、三種委員会で指導されている先生方の情熱、女子委員会での課題でもある高校生年代へのスムーズな移行を狙いとして、レガシープログラムの一環として中体連所属女子選手だけの練習会、試合環境の提供を行った。同時に、社会人チームに所属する現役女子選手6名に参加していただき、FA専任コーチにアドバイスを受けながら指導することの魅力を伝えていただき、中体連選手と一緒にプレーをしたりアドバイスやコーチングの実践の場として行った。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

今年度においては、各チーム、クラブにおいても新型コロナ感染拡大に伴い活動ができない状況が続いており、特に育成年代は練習できていない状況が続いていた。

協会からは、延期された各大会のグラウンド調整に尽力いただき柔軟に対応していただいた。

各クラブの現状を把握して、合同練習会やカテゴリーにとられないオープンな練習環境の提供などを協会に提案して、月1度女性dayとしてグラウンド開放などに取り組んでいきたい。





【今後の目標】

サッカーを文化にしていけるためにも、男女とらわれずキッズ年代にどれだけ外遊びからボール遊び、サッカーの楽しさを伝えられる指導者が増えていくか、また女子選手が指導者に魅力を感じて、現役を終えた後に指導者を目指したいと思えるような環境をつくる必要がある。

ミドル・シニア世代（子育て世代）がキッズ、少女・少年と一緒にボールを蹴れる環境が必要である。ママさんサッカーブームを京都で起こして、親子でサッカーに興味を持ってもらえるようにファッショナブル、サステナブル、健康維持などを強調したイベント、フェスティバルを開催して新たなサッカーファンを増やしていきたい。

普及コーディネーター取り組み事例紹介③

大阪府

藤井 茂幸さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題（フェスティバル等）】

コロナ禍で特に未経験者を対象にしたフェスティバルは計画があっても実施には開催に至りませんでした。ただキッズの巡回指導は緊急事態宣言解除後には来てほしいと連絡が多くあるとのことで可能性を感じています。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること（フェスティバル等）】

テーマ＜女子委員会とキッズ委員会の協働＞

女子委員会をはじめ、キッズ委員会においてもフェスティバルやクリニックなどの普及活動はできていない状況ではありましたが、緊急事態宣言解除後の活動再開に向けた取り組みとして、女子委員会にてフェスティバル会議を開いて会場の調整や内容の検討を行いました。会場不足の課題はキッズ委員会のフェスティバル会場で行うことで解消、11月の初回は園児と低学年を対象としたフェスティバルを女子委員会とキッズ委員会のスタッフにて合同で行うことになっています。コロナ禍が落ち着いてくれば巡回指導などでサッカーに出会った子どもたち、サッカーをやってみたいと思っていた子どもたちが参加できるフェスティバルなど普及事業を途切れないように開催計画する必要を感じています。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

大阪には行政8地区があり、それぞれの地区の生活圏内で特にU12やU15の女子サッカーの活動場所があることが理想だと思います。FA事務局が自治体とも連携しながら、会場提供や告知について協力をいただいたり、生活圏内でサッカーフェスティバルなども開催してもらえると普及も進むのではないかと思います。また各種別委員会や地区の協会登録クラブから指導者を派遣いただければ（女性指導者の発掘もできる）、クラブの認知も広がり、地区が活性化してより女子サッカーが盛り上げていくのではないかと考えます。

【今後の目標】

女子普及コーディネーターとして次年度の女子普及活動での会場確保してもらえるよう努める。引き続きキッズプログラムでサッカーに出会った子どもたちが、サッカーを続けて楽しめるように各年代でのフェスティバルなどの普及活動を途切れず行っていきたい。またU8とU10のガールズエリート活動や各年代のトレセン活動を通じて、引き続き女子委員会、キッズ委員会、技術委員会の活動やスタッフを繋いでいきたい。フェスティバルやガールズエリート、トレセン活動に関わってもらえる女性スタッフを増やし、将来的には女性指導者が増えるように取り組みたいと思います。



普及コーディネーター取り組み事例紹介④

兵庫県

加治 真弓さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

コロナ禍で、活動が制限される中、各年代で、大会やリーグ戦、トレセン活動や普及活動など担当者の方々の熱意で行われている。これらの活動を維持・発展していくために、関わってもらえる人の輪を広げていくことが課題である。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

テーマ＜各年代の連携＞

昨年から取り組んでいる兵庫県女子サッカーリーグ（県リーグ）も、人数確保が少しずつ進み2022年には20歳～40歳代と50歳以上に分けられる。このリーグは20歳から参加となっていたが、高校卒業した人がすぐに入れるように18歳からの参加ができるように働きかけている。シニア世代までサッカーをやめずに継続できるようにそして、学校を卒業しても継続してサッカーができるようにこれからも組織づくりを進めていきたい。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

兵庫県は13都市協会に分かれている。中学年代でサッカーをやめないように、男子サッカー部に所属する生徒を集め活動している自治体や各都市協会が出てきている。私自身もまだしっかり把握できていないところがあるので、兵庫県サッカー協会と協力して、横のつながりを持ち活動を広げていきたい。また、キッズと連携して、サッカーをまったくやっていない少女達にサッカーを経験してもらい、母親も含めて女子サッカーをする人数拡大につなげていけるように関わっていく。

【今後の目標】

中学校で男子と一緒にサッカー部に所属している女子選手やサッカー部がないためにサッカーができなくなった生徒を集めてサッカーをする活動を、神戸市では平成24年度から継続して行っている。その活動に参加した生徒が、高校でもサッカーをやめずに現在、県リーグでサッカーを続けている。このように、兵庫県で女子サッカーをする児童、生徒たちがサッカーをやめずに、社会人になっても、母になっても生涯サッカーをできる環境、組織づくりをこれからも行っていく。それと同時に、指導者の輪を広げ、横のつながりや各年代の連携を図っていきたい。



普及コーディネーター取り組み事例紹介⑤

奈良県

佐伯 博光さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

奈良県では緊急事態宣言等は発出されていませんでしたが、感染拡大防止に努めるため、フェスティバルやサッカークリニックの開催に厳しい状況が続きました。

これまでも年4回のガールズ／レディースサッカーフェスティバルや月1回のガールズサッカークリニックを通じてサッカーファミリーの拡大に取り組んできており、女子委員会では継続しての活動を模索し、8月1日により今年1回目となるフェスティバルの開催を行いました。

フェスティバルは、「JFAレディースフェスティバル2021 奈良 in フットボールセンター」と題し、今回はレディース中心に広報を行い、普段は保護者として子どもを応援している方が、プレーする機会を作ることを目的としました。暑さも考えナイターで行いましたが、好評でした。また、高校の部活でサッカーをしていたが、大学生になりサッカーを離れた方も数人参加いただき、久しぶりに走るピッチで楽しんでくれました。今後も、ターゲット年代の拡大と継続的な実施ができる環境を整えて行きたいと思います。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

テーマ＜大人も子どもも一緒にサッカー＞

子どもも大人も一緒にサッカーを楽しめる場を作ることを通して、いつもは応援して頂いている保護者の方もサッカーをプレーする楽しみを知ってもらい、普及につながればと考えています。また、この状況下でまだ実現できていないファミリーフットサルとのコラボも、関係する皆さんと共に実現を目指したいと考えています。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

ガールズ／レディースサッカーフェスティバルやガールズサッカークリニックに、クラブや中学生・高校生・大学生に参加者としてだけではなくスタッフとして関わってもらい取り組みも行っており、これを積極的に進めていきたいと考えています。この取り組みを通して各年代間の連携が行うことができればと思います。

【今後の目標】

コロナの状況下、自宅にこもりがちな状態から、広い明るいピッチで子どもと大人が同時にサッカーを楽しむことのできる場を継続的に作り出したいと考えています。また、その中に中学生・高校生・大学生等、幅広い年代にアプローチできる取り組みを考えていきたいと思っています。こうした活動の通じ、各年代間の連携を深め、各年代のトレセン活動の拡充につながればと考えています。



普及コーディネーター取り組み事例紹介⑥

和歌山県

岩橋 啓介さん

【各FAでのサッカーファミリー拡大にむけた現状と課題(フェスティバル等)】

2019年以降高校・中学校の女子サッカー部の新規・3種クラブチームの新規女子チーム立上げなどもあり、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けつつも、女子の人口は増加を継続しています。そういった中、女子に関わるスタッフを増やすこと。特に、女性指導者を増やすことが今後の課題になります。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること(フェスティバル等)】

2021年は新型コロナウイルス感染拡大による影響で行えていなかった女性限定新規4級審判講習会を7月に開催することができ、52名が参加しました。審判の資格を取って終わりではなく、上級審判との交流や実戦経験を積める機会を増やし、審判の楽しさを知ってもらえる環境整備が必要となります。

フェスティバルでは県内各地で年数回開催しています。フットサルとの連携や地域の女子選手・参加女子スタッフとのゲーム大会を行うなどマンネリ化しないよう工夫をしています。



【FA、自治体、クラブ等との関わり】

ガールズゲームでは合同チームで参加しました。練習会では地域のU-15チームとトレーニングマッチを行うなど3種との交流も行っています。また、4種・トレセン・女子委員会が連携をとり、選手の把握・連絡体制の整備・女性スタッフの確保など連携をとって行っています。

【今後の目標】

県内では高校からサッカーを始める選手も多数います。ですが、卒業とともにサッカーから離れる選手が多いのも実状です。卒業後もサッカーに関わりを持ち続けるきっかけ作りが必要だと思っています。2021年は「WEリーグ」、2022年には「国体少年女子」が開催されます。このような大きなイベントをきっかけにして女子の活動にかかわる人を増やすこと、理解者を増やすことを目標として活動していきたいと思います。

「HER TEAM」プロジェクト 2021年度 募集開始！

女子中学生のサッカーチーム創設支援を通し、女子スポーツの未来を変える

「HER TEAM」プロジェクト 2021年度 募集開始

澤 穂希と岩渕 真奈の対談スペシャルムービーも公開



<https://shop.adidas.jp/ImpossibleIsNothing/onestartingline/tokyo/>

アディダス ジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：ステイン・ヴァンデヴォースト）は、公益財団法人日本サッカー協会（所在地：東京都文京区本郷、会長：田嶋 幸三、以下 JFA）とともに、より多くの中学生年代の女性がサッカーを続けられる環境作りをサポートする「HER TEAM」プロジェクト 2021年度の募集を2021年10月1日（金）より開始いたします。また今回の募集開始に伴い、元なでしこジャパン（日本女子代表）澤 穂希さんと現なでしこジャパン（日本女子代表）岩渕 真奈選手のスペシャル対談ムービーも公開いたします。

アディダスは「スポーツを通して、私たちには人々の人生を変える力がある」という理念のもと、女性を含む全ての人々が安心してスポーツに取り組むことができるよう様々な活動を行っております。

その一環として、日本では昨年度より女子中高生のスポーツ継続率の向上を目指した活動を行っております。一方でJFAも、なでしこvisionに掲げる「サッカーを女性の身近なスポーツに」「女性が輝く社会の実現」を目指した様々な活動を行っており、両者が女子サッカーの普及・発展に対する互いの強い想いに共感し合い、また同時に課題についての共通認識を持ったことにより、2020年に本プロジェクトの立ち上げが実現いたしました。

澤 穂希×岩渕 真奈 スペシャルインタビュー企画



「HER TEAM」プロジェクト 2021の一環として、元なでしこジャパン（日本女子代表）キャプテンの澤 穂希さんと、現なでしこジャパン（日本女子代表）でエースナンバー10番を背負う岩渕 真奈選手のスペシャルインタビュームービーが公開されます。日本の女子サッカー界を代表するお2人から、対談形式でサッカーの魅力や楽しさをテーマに語っていただきます。

本ムービーは、特設サイトでご覧頂けます。 特設サイトURL :

<https://shop.adidas.jp/ImpossibleIsNothing/onestartingline/tokyo/>

・岩渕 真奈選手



・澤 穂希さん



2020 年度について

2020年度のHER TEAMプロジェクトでは、全国29都道府県・計67チームからご応募を頂き、これまで女子中学生年代に特化したチームが無かった自治体に属する3チームを含む、総計10チームに対して創設のためのサポートを行いました。各チームから応募の際に頂戴したコメントや応募動機を読むと、「常にチーム創設の検討はしていたが本プロジェクトで背中を押された」「チーム立ち上げの際にかかるコストは大きく、選手とその家族に負担の大きいユニフォームを提供してもらえることはメリットが大きかった」「指導をしたいと思っている人は一定数いる。だけど、そもそも選手がどこまで集まるのかわからないが、サポート内容が具体的で有効だと思った」などの好意的なコメントを頂きました。

昨年当選10チーム（順不同、敬称略）

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 1. トルベリーノ（和歌山県） | 6. ボラミーゴ新潟（新潟県） |
| 2. SET STAR WAKAYAMA Ladies（和歌山県） | 7. FC Re:star Maria（岐阜県） |
| 3. Hata meisje（高知県） | 8. FC Kuruli girls（長崎県） |
| 4. FC徳島Bonita（徳島県） | 9. さいたま市立常盤中学校（埼玉県） |
| 5. 四日市Synapse GLs FC（三重県） | 10. キャメリアL&Gアカデミー（山梨県） |

女子サッカーの現状



JFA が 2019 年度に集計した競技者登録データでは、13 歳（中学 1 年生）を迎えると約 1,000 人もの選手（22%）がサッカーから離れているという現状は前年の 2018 年度より改善はしておりません。女子中学生年代に特化したチームは全国に 187 チームとなり、7,000 以上を数える男子主体のチームに比較すると約 3%に留まったままです。

女子中学生に特化したチームが無いという理由から、中学生男子主体のチームや一般女子のチームでプレーをしている選手が過半数いるというのが現状です。一方、この年代は、男子との身体的能力に開

きが出てくる年代でもあり、プレーする環境に対してより多くの選択肢を持てることは大きなサポートとなるに違いありません。そして、この問題の解決には忍耐と継続性が不可欠であることは明白です。

■参考データ（2019 年度 JFA 競技者登録データ）

1. 女子年代別競技人口（7-18 歳 全体合計 43,657 名 *全体では 2018 年度対比で 269 名増）

単位：人数	年齢	2018	2019
小学校世代	7	427	465
	8	1241	1250
	9	2948	3068
	10	4614	4761
	11	5281	5227
	12	5149	5222
中学生世代	13	4087	3914
	14	3756	3893
	15	3471	3503
高校生世代	16	4458	4586
	17	4139	4058
	18	3817	3710



2. 中学生年代に特化した全国のチーム数（合計 7,541 チーム）

*2018 年度対比全体 0.3%減、女子チーム単体で 2018 年度対比 0.5%減

女子 187 チーム / 男子主体 7,354 チーム

3. 女子中学生年代選手の所属チーム内訳（合計 11,310 名）

女子中学生年代に特化したチームに所属・・・3,740 名（全体の 33%）*2018 年度対比 1%減

男子主体のチームや一般女子チームに所属・・・7,570 名（全体の 67%）*2018 年度対比 1%増

【募集概要】

■創設サポート内容…

- ・メンバー募集のための告知ツール
- ・ユニフォームの提供（約20名分想定）
- ・サッカークリニックの開催
- ・日本サッカー協会 及び アディダス フットボール関連活動への優先ご招待（2021年～2022年）

■サポート期間… チーム創設初年度

■募集エリア… 全国（日本国内で活動するチームに限ります）

■募集数… 公表しておりません * 参考：2020年 10チーム当選

■募集期間… 2021年10月1日（金）より、アディダス オンラインストア上の特設応募ページ

（<https://shop.adidas.jp/ImpossibleIsNothing/onestartingline/tokyo/>）にて受付開始

※10月31日（日）締め切り後、応募内容を審査し、支援チームを発表。

■募集対象… 以下すべてに当てはまることが条件となります。

- ・中学生年代（U-15年代）の女子がプレー可能で、
2021年度（2021年4月から2022年3月まで）に新規創設されるチーム
※既に「女子」以外の種別でJFA登録をされているチームが、新たに「女子」の種別でJFA登録をされる場合も対象とします。
- ・2021年度（2021年4月から2022年3月まで）に、チームが創設され、「女子」の種別でJFA登録を完了すること。
- ・継続的なチーム運営を前提とします。

■その他… ・中学生年代（U-15年代）の女子に特化したチームを優先してサポート致しますが、幅広い年代が入会可能な女子チームの創設も対象となります。

（中学生/U-15年代もプレーが出来ることが必須となります）

- ・「チーム」には、部活動も含みます。

詳細は、特設ページ <https://shop.adidas.jp/ImpossibleIsNothing/onestartingline/tokyo/> をご確認ください。

©2021 adidas Japan K.K. adidas, the 3-Bars logo and the 3-Stripes mark are trademarks of the adidas.

＜一般のお客様からのお問い合わせ＞
アディダスお客様窓口 Tel：0570-033-033
（土日祝除く、9:30～18:00）

＜メディアご関係者からのお問い合わせ＞
アディダス ジャパン 広報事務局
（株式会社イニシャル内）担当：小山/菱沼/松本
TEL：03-5572-6071 FAX：03-5572-6075
email：adidas.ftb@vectorinc.co.jp

女子GKキャンプ 2021セレクションキャンプ参加選手募集



なでしこジャパン（日本女子代表）のゴールキーパーを目指す、意欲ある中学生の女子選手を募集します。
サッカー経験・ゴールキーパー経験の有無、現在の活動状況は問いませんので、ぜひご応募ください。

◆応募資格

①なでしこジャパン（日本女子代表）のゴールキーパーを目指す、意欲のある女子選手

②学年 2021年度 中学1年生～中学3年生（2006年4月2日～2009年4月1日 生まれ）

③中学3年生：身長165cm以上

中学2年生：身長160cm以上

中学1年生は身長を問いません。

◆応募方法

専用応募用紙に必要事項を記入し、写真（全身が写っているもの、裏面に名前を記載）を同封のうえ、次ページの「お問合せ先」まで郵送してください。

※専用応募用紙はこちらのホームページの「女子GKキャンプ2021セレクションキャンプ応募用紙」のダウンロードをお願いいたします。

http://www.jfa.jp/youth_development/news/00028035/

◆応募締切

2021年 11月3日（水・祝）必着

◆セレクション キャンプ

2021年12月3日（金）～12月5日（日）

会場：高円宮記念JFA夢フィールド/稲毛海浜公園球技場（千葉県千葉市）

応募者から書類審査にて選出した約20名のメンバーでセレクションキャンプを行います。

参加の可否については、11月15日（月）頃までに応募者全員に郵送にて連絡します。

◆経費・参加費

集合場所までの交通費（往復）は参加者負担となります。

期間中の宿泊費、食費、諸経費はJFAにて負担します。

◆新型コロナウイルス感染拡大防止対策

参加者は事前に配布する健康チェックシートを提出していただきます。（開催2週間前からの検温等）集合時に、PCR検査に相当する新型コロナウイルス検査を受けていただきます。

以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせてください。

- ・体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- ・居住や通学されている自治体、学校で、移動や宿泊の制限に抵触する場合
- ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航、又は当該在住者との濃厚接触

◆お問合せ先

公益財団法人日本サッカー協会 強化育成部女子グループ

〒261-0022 千葉県千葉市美浜区美浜11 TEL 03-3830-1810

☆女子GKキャンプとは

将来のなでしこジャパンのゴールキーパー（GK）を発掘・育成するプロジェクト。

日本女子サッカーの強化・育成の鍵であるU-15（中学生）年代前後の選手を「強化」「育成」「普及」の観点から選出し、継続したトレーニングを行う。

詳しくはこちら

http://www.jfa.jp/youth_development/super_girls_project/

2021 プレナス なでしこリーグ1部

伊賀FCくノ一三重



なでしこリーグ1部は初

※プリマハムFCくノ一 1995年、1999年 L・リーグ 優勝2回



〔2021 プレナス なでしこリーグ1部 最終順位〕

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	 伊賀FCくノ一三重	53	22	17	2	3	53	17	+36
2	 スフィード相模湾FC	41	22	12	5	5	45	24	+21
3	 セレソ大国魂レディース	38	22	10	8	4	41	24	+17
4	 日体大FIELDS横浜	36	22	11	3	8	24	27	-3
5	 駿河FCレディース	32	22	9	5	8	25	36	-11
6	 ニッパツ横浜FCシーガルズ	31	22	8	7	7	31	25	+6
7	 ASハリマアルビオン	26	22	6	8	8	27	29	-2
8	 NGUラブリッジ名古屋	26	22	7	5	10	27	33	-6
9	 オルカ怪川FC	22	22	5	7	10	17	26	-9
10	 コノミヤ・スペランツァ大国魂	22	22	5	7	10	26	36	-10
11	 アンジュヴィオレ広島	20	22	5	5	12	22	43	-21
12	 大和シルフィード	14	22	2	8	12	23	41	-18

2021プレナスなでしこリーグ2部

J F A アカデミー福島



なでしこリーグ2部は初優勝

※チャレンジリーグ 優勝1回



©J.LEAGUE

〔2021プレナスなでしこリーグ2部 最終順位〕

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	 J F A アカデミー福島	33	14	10	3	1	42	9	+33
2	 パニース群馬 F Cホワйтスター	33	14	10	3	1	39	15	+24
3	 静岡 S S U アスレジーナ	30	14	9	3	2	30	14	+16
4	 福岡 J・アンクラス	20	14	6	2	6	15	25	-10
5	 ノルディーア北海道	16	14	4	4	6	13	14	-1
6	 つくば F C レディース	10	14	3	1	10	14	30	-16
7	 吉備国際大学 Char me 岡山高梁	9	14	2	3	9	10	32	-22
8	 岡山湯郷 Belle	7	14	2	1	11	12	36	-24

2021プレナスなでしこリーグ1部・2部入替戦

節	日程	キックオフ	対戦カード	スタジアム
1	10月31日(日)	14:00	バニーズ群馬FCホワイトスター-大和シルフィード	敷島
2	11月7日(日)	13:00	大和シルフィード-バニーズ群馬FCホワイトスター	保土ケ谷

2021プレナスなでしこリーグ2部入替戦

節	日程	キックオフ	対戦カード	スタジアム
1	10月30日(土)	11:00	ディアヴォロッソ広島-SEISA OSAレイア湘南FC	びんご
	10月31日(日)	13:00	岡山湯郷Belle-ヴィアティン三重レディース	美作
2	11月6日(土)	13:00	ディアヴォロッソ広島-ヴィアティン三重レディース	広域第一
	11月7日(日)	11:00	SEISA OSAレイア湘南FC-岡山湯郷Belle	三増
3	11月14日(日)	13:00	岡山湯郷Belle-ディアヴォロッソ広島	美作補1
			ヴィアティン三重レディース-SEISA OSAレイア湘南FC	上野

2021プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会

- 1位 ディアヴォロッソ広島 (DR広島)
 2位 SEISA OSAレイア湘南FC (R湘南)
 3位 ヴィアティン三重レディース (V三重)



2021プレナスなでしこリーグ2部入替戦
へ出場決定

3位4位決定戦 09/26(日) 10:00  D出雲 0-1  V三重

1位2位決定戦 09/26(日) 13:00  R湘南 0-2  DR広島

Aグループ

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	得失点
1	 SEISA OSAレイア湘南FC	8	3	2	1	0	0	7	1	+6
2	 ディオッサ出雲FC	7	3	2	0	1	0	6	1	+5
3	 FC今治レディース	3	3	1	0	0	2	4	3	+1
4	 北海道リラ・コンサドーレ	0	3	0	0	0	3	0	12	-12

Bグループ

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	得失点
1	 ディアヴォロッソ広島	4	2	1	0	1	0	2	0	+2
2	 ヴィアティン三重レディース	3	2	1	0	0	1	1	2	-1
3	 FCふじざくら山梨	2	2	0	1	0	1	0	1	-1

なでしこひろば



【開催の様子をご紹介します】

◆FC Bambina！（大阪府） 9月19日（日）

2回目の「なでしこひろば」を開催させて頂きました。大阪は緊急事態宣言下での開催でしたのでほとんど告知もせず、SNSを少しと、チームのメンバーからの知り合いへのお誘いのみと致しました。それでも、前回のリピーターや新規の高校生も参加して頂き、大変楽しい場となり、好評を頂き、次回への励みとなりました。

内容としては、サッカーに拘らず、サッカーボールを使った遊び（コーディネーション）を中心に構成しました。ハンドドリブルでのパス交換で挨拶、ペアでのボール運びリレー競争、ドリブルでのボール出し、2vs2、ミニゲームといった感じです。

次回は、今回参加された子ども達のお母さんにも参加して頂けないかと案を練っております。また、自治体への協力要請もしてまいります。



◆アザリー飯田フットボールクラブ（長野県） 9月23日（木・祝）

2021年9月23日（木・祝）に秋晴れのアジア電子工業天然芝グラウンドで、今年になって初めて開催された『なでしこひろば』は、2017年から立ち上がり早5年目となります。述べ20回、300名を超える南信州地域を中心とした女子小中学生が参加しています。

昨年から新型コロナウイルス拡大のため中止となっており、今回も開催が危ぶまれましたが、9月に入りこの地域の感染レベルも下がり、感染症予防を万全にしようやく開催することができました。

始めは、いつものように自己紹介ゲームからボール渡しリレーでチームごとコミュニケーションを図り、小学4年生以下と小学5年生以上に分かれてサッカーのトレーニングを行いました。

小学4年生以下は、止める・蹴る・運ぶのデモンストレーションでサッカーの基本動作を体験し、コーンを置いてのドリブルシュート、3対3・4ゴールゲームを行いました。ボールに慣れない選手も楽しそうにボールを追いかけて、ドリブルしたり、シュートを打ったり、ゴールを決めて喜んでいました。

小学5年生以上は、3対3+GKや5対5ミニゲームなどゲームを中心にサッカーを楽しみ、あっという間の2時間が過ぎました。

終わってから「サッカーって難しいと思っていたけど楽しかったあ」「最初は難しいと思ったけどコーチが丁寧に教えてくれてボール扱いが上手くなった!」と参加者から声がこぼれました。

今現在、長野県内でも南信州地域は、大きなJクラブもなく、プロサッカーリーグができるスタジアムなどもない環境ですが、今後も少しずつですが、地域の女子サッカーの普及のために月1回を目標に開催していきたいと思います。

10月は17日（日）に開催、次回は11月23日（火・祝）にアジア電子工業天然芝グラウンドで開催しますので多くの皆様のご参加お待ちしております。



【なでしこひろばデータをまとめてみました】

全国都道府県別認定団体数及び2021年9月開催申請数

都道府県	団体数	開催 申請数	都道府県	団体数	開催 申請数
1 北海道	15	2	25 滋賀県	7	2
2 青森県	5		26 京都府	8	
3 岩手県	5	1	27 大阪府	18	4
4 宮城県	10	3	28 兵庫県	10	
5 秋田県	3	2	29 奈良県	3	
6 山形県	2		30 和歌山県	3	
7 福島県	2		31 鳥取県	5	
8 茨城県	9	1	32 島根県	1	
9 栃木県	16	3	33 岡山県	11	
10 群馬県	5		34 広島県	9	
11 埼玉県	36	1	35 山口県	2	
12 千葉県	11		36 香川県	6	
13 東京都	59	5	37 徳島県	4	4
14 神奈川県	24		38 愛媛県	3	
15 山梨県	6		39 高知県	2	
16 長野県	11	2	40 福岡県	13	1
17 新潟県	7	1	41 佐賀県	6	1
18 富山県	4		42 長崎県	6	
19 石川県	6	1	43 熊本県	4	
20 福井県	5	2	44 大分県	5	1
21 静岡県	11	2	45 宮崎県	3	
22 愛知県	20	3	46 鹿児島県	2	
23 三重県	10		47 沖縄県	8	
24 岐阜県	5		合計	426	42

【2021年9月データ】

- ・ 全国登録団体数 : 426団体
- ・ 新規登録団体数 : 3団体
- ・ 認定団体数の全国トップ3
 - 1) 東京都 (59団体)
 - 2) 埼玉県 (36団体)
 - 3) 神奈川県 (24団体)
- ・ 全国開催申請数 : 42開催
(8月開催申請数は76開催、34開催減)

9月30日、全国で緊急事態宣言が一斉に解除されました。報告される日々の感染者数も落ち着いてきてはいるようですが、まだまだ油断はできません。3密回避、うがい・手洗いの徹底、消毒などの基本的な予防を心がけ、引き続きお気をつけてお過ごしください！
9月の開催申請数は減ってしまいましたが、近頃では「久しぶりに開催します！」との嬉しいお声も聞かせていただけるようになりました。今後も、ご無理のない範囲で開催のご検討をしていただけますと幸いです。

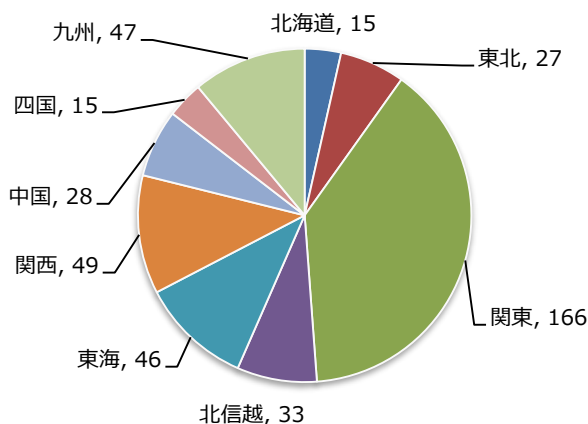
【事務局の受け付けが変更になりました】

2021年4月から、なでしこひろば事務局の受け付け・お問い合わせ方法をメールのみの対応とさせていただきます。
これまでの電話受け付けがなくなり4月1日以降はメールのみの対応とさせていただきます。各団体様にはご不便をおかけいたしますが、何とぞご了承のほど重ねてお願い申し上げます。

E-mail : info@nadeshikohiroba.jp
(今までのアドレスと変更ありません)

地域別認定団体数

北海道	15カ所
東北	27カ所
関東	166カ所
北信越	33カ所
東海	46カ所
関西	49カ所
中国	28カ所
四国	15カ所
九州	47カ所
【合計】	426カ所



<http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>

※次回は2021年11月10日（水）ごろ配信予定です。お楽しみに！